

公的統計マイクロデータ研究コンソーシアム第15回運営委員会  
議事録

- 1 日時 令和3年8月6日(木) 10時~12時00分
- 2 場所 オンライン会議(ZOOM)
- 3 出席者 (運営委員) 南委員長、伊藤副委員長、赤谷委員、稲垣委員、高部委員、  
田中委員、中村委員、山下委員、岡本委員  
(オブザーバー) 越氏

4 概要

(1) 前回の議事録の確認

第13回運営委員会(オンライン)、第14回運営委員会(書面)の議事録について委員長が資料1、2に沿って説明・確認した。

(2) 運営委員の交代について

官側の人事異動に伴う運営委員の変更及び職名等の変更について資料3に沿って委員長が説明した。新運営委員として、中村委員(総務省政策統括官室・参事官)、赤谷委員(総務省統計局データ利活用センター・センター長)が承認された。

(3) コンソーシアムシンポジウムおよび評議会の開催について

今年度の公的マイクロデータ研究コンソーシアムシンポジウムについて、資料4の案に沿って委員長が説明し検討した。

(主な意見)

- 今年度は11月中旬ごろに本コンソーシアムのシンポジウムを、オンラインにて開催予定。尚コロナ禍の状況によってはZOOMウェビナーと対面のハイブリット開催を検討している。また統計センター主催の「官民オープン利活用の動向」の研究集会との連携も検討中。

プログラムの内容としては、午前中はオンサイト利活用に関するチュートリアル、午後はデジタル庁開庁に伴う10月10日のデジタルの日に賛同する取り組みとして、広く一般に公的統計を啓蒙するため「公的統計と統計教育」というテーマでの講演を考えている。

- チュートリアルの「オンサイト利用のノウハウ」については、利用する際の入り口と出口、つまりオンサイト利用の申請手続きの期間をより短くするためのノウハウや、持出し審査についてのノウハウなどの切り口が考えられる。申請時の具体的な書類の書き方や、持出し審査時の注意すべきポイントなどを説明すると、オンサイトを利用する方達にとっての手助けになるのではないかと。

→ アンケートの結果でも、申請時の手続きに数か月かかっているという意見が出ている。これらの入り口と出口の観点から、オンサイト利用希望者に伝えられるノウハ

ウがあるのか、統計センターに確認する。

- 「統計センター・利活用センターにおけるオンサイト利用推進の取り組み」については、利活用センターの認知度の向上に関する内容やオンサイトの利用推進の具体的な取組みなどを深掘する内容を予定している。
- 「公的統計の最近の話題」については、国勢調査の結果やコロナ禍における社会生活基本調査などをテーマにしていくつか考えられるが、今後内容を検討する。
- 開催形態については、ワクチン接種も進んできたため、先は見えない状況ではあるがハイブリット開催も考えている。  
→ハイブリット開催は、これまでのシンポジウムや研究集会をみても労力の割に参加者にとってもメリットが少ない。
- 共同研究集会との連動に関しては統計センターの共同研究集会の他に、岡山商科大の佐井先生の研究集会（大規模データの公開におけるプライバシー保護の理論と応用）とも連動して相乗効果を持つと良いのではないかと考える。  
→ 昨年は残念ながら共催という形だったが、今年は連動できるよう検討する。

#### (4) コンソーシアム一般向けアンケートの実施について

公的マイクロデータに対する利用意向・利用状況に関する一般向けアンケートの集計結果概要について、資料6に沿って説明した。

(主な意見)

- コンソーシアムに対する要望としてリポジトリがあげられていたが、例えばデータの読み込みや分析結果を出すためのプログラムを、リポジトリを用意して載せるなどする方法も考えられる。またRなどの特定のソフトウェアに特化したチュートリアル講習会などを会員限定で行うと会員のメリットにつながり、また会員間の情報共有なども可能となるのではないかと考える。  
→ 確かにリポジトリがあると良い。またRに特化したチュートリアルなども開催する方向で今後考えていきたい。ただチュートリアルで利用する擬似データは現時点では持出しができないため、その点が障害となっている。また体系的な符号のネーミングの共通化が必要ではないかと考える。
- マシンスペックの向上がアンケートの要望に入っていたようだが、オンサイト施設側のスペックに依存するものか。  
→スペックは統計センターの仮想マシンのスペックに依存する。一度にこれらのマシンスペックをあげることは難しいが、今後検討していきたい。
- 前回の会員向けアンケートとマージして結果まとめるなど、今後検討していく。
- 今回でアンケートのしくみができたので、別の機会に再度チャレンジすることも考えている。

#### (5) 議事録の公開について

匿名化した運営委員会・評議会議事録の会員への公開について、コンソーシアムウェブサイトを提示し報告した。

当面は会員向けの公開となるが、今後は一般向けへの公開についても検討を進める。

(6) 連合大会の企画セッションの実施について

今年度の連合大会企画セッションについて、資料 8 に沿って委員長が報告した。今年度は「公的マイクロデータの公的統計マイクロデータにおけるさらなる利活用をめぐる」という企画セッションで 5 件発表予定。

(7) コンソーシアム会員募集ちらし作成について

コンソーシアム会員募集ちらし作成について、資料 9 に沿って委員長が報告した。今後イベントのタイミングに合わせて配布する予定。

(8) その他

- 総務省統計局から統数研へ赴任していただいている方々については、今後運営員になってもらうなど、コンソーシアムを通じて官側と学側の人的交流に活かして欲しい。  
→ 承知した。
- 統計エキスパート人材育成として今後統数研で新規雇用される研究者においては、公的統計データの扱いを学ぶという機会があっても良いかと考える。
- オンサイト施設の内、利用実績がない施設が 2 か所ある。実績を増やすための方策などについてこういった場で検討できればと考えている。  
→ 我々の拠点を含めてテコ入れは必要と考えている。設置する際に利用を希望した人以外の需要の掘り起こしが重要。アンケート結果からも今まで使っていなかったが今後使いたいという利用希望者はいるので、利用のハードルを下げる点やそもそもオンサイト施設の存在を周知していくなど、活動を進めていきたい。  
→ 更なる展開として、シンフォニカからオンサイト施設設置に関する助成金も準備されている。今年度の申込み締切りも近くなってきているが、もし周りにオンサイト施設の展開を希望する方がいたらぜひ紹介して欲しい。
- 立正大学については来年度オープンに向けて設置を進めている状況。自身の研究室と非常に近い位置にオンサイト施設を設置予定のため、他にはない環境という面についても今後発信できればと考えている。
- 一橋大学のオンサイト拠点については、粛々と利用を積み重ねている状況。共同利用共同研究拠点として公的マイクロデータの強化予算を確保できるように活動を進めている。
- コンソーシアムの普及について、オンサイト拠点ではどういったことができるのかという情報発信の強化は、コンソーシアム会員を増やすためのインセンティブになると考える。

他方で現状ではコンソーシアムの対象となるのは官と学の方達でほとんど民間の方は

含まれていないが、統計法では民間の学術研究利用は排除されておらず、公的マイクロデータの利活用というのは民間の方々も想定されている。例えば擬似データを通じて公的統計やマイクロデータ活用の可能性を広げるなど、一般の方々へも関心をもってもらう取り組みや情報発信というのが、このコンソーシアムのテーマだと考える。今回のシンポジウムの中の教育というのは、この点で重要な切り口だと思う。

→ 家計調査などは民間の方々でも利用すると有用だと感じるが、実際にはあまり利用されていない。民間の会員も多い情報系のコミュニティーと公的統計のコミュニティーも分断されている印象を受ける。今後は情報系のシンポジウムで公的統計の企画セッションを実施したり、国立情報学研究所との連携を深めたりし、民間も含めた公的統計のユーザーを増やす方策を考えていく。

以上